

「ふね遺産」（推薦様式）：A4 一枚に収め、それ以上は別途資料添付して下さい。

No.(*)	内容	備考
1. 対象物・資料の名称・所属または所有者	対象物： 練習船・帆船「進徳丸」（非現存船） 所有者： 神戸高等商船学校（竣工当時） メモリアル等所有者： 神戸大学 海事科学研究科 海事博物館	2,518.42 GT LoA 109.10 m (主要目は別添)
2. 対象物の作成・存在時期	進水 1923 (T12) 年 12 月 三菱・神戸造船所 (第 129 番船) 竣工 (帆船) 1924 (T13) 年 2 月 神戸高等商船学校 移管 1943 (S18) 年 4 月 逓信省・航海訓練所に移管 擱座 (戦災) 1945 (S20) 年 7 月 播磨灘・二見沖 改装 (汽船) 1947 (S22) 年 5 月 三菱・神戸造船所 廃船 1963 (S38) 年 3 月 運輸省・航海訓練所 陸置 1967 (S42) 年 5 月 神戸商船大学 解体 (震災) 1995 (H7) 年 10 月 神戸商船大学 メモリアル設置 1998 (H10) 年 3 月 神戸商船大学 (神戸大に現存)	震災 (1923 関東) から震災 (1995 阪神・淡路) まで。  船名は、「国民精神作興ニ關スル詔書」から。
3. 現状 (写真添付)	  <p>左 メモリアル、 上 当時の写真</p>	 <p>神戸商船大学 開学記念誌口絵</p>
4. ふね遺産認定基準の該当項目(**)	<p>【認定対象】</p> <p>(1) 練習船・帆船「進徳丸」（証拠資料を伴う非現存船）。 「進徳丸メモリアル」として、ジガーマスト、蒸気レシプロ機関、船長公室、学生居室等の一部は、神戸大学深江キャンパスに現存。</p> <p>【認定基準】</p> <p>(1) ふね関連技術の教育上、大きな貢献をしたもの。</p>	現存する「進徳丸」関連の海事博物館所蔵品リストを別添資料 (pp6-7) に記載。
5. 歴史的・工学技術的意義	<p>(1) 海技者育成実績 (総航程：帆船 30 万 8 千漙、汽船 22 万 1 千漙、総実習生：11,900 名) および陸置後の青少年向け海洋訓練実績 (宿泊延べ 146,954 人泊)。</p> <p>(2) 日本史上 (国内建造) 最大の帆装、4 檣パーカンティーン型。</p> <p>(3) Lamage &amp; Ferguson Co. (英国) が商船帆装をベースに設計。</p> <p>(4) 航海報告 (神戸高等商船学校全 40 次航)、練習船進徳丸史、航海記録 (第 21 次訓練風景) 16mm フィルム・複製 DVD 等の資料が多数現存。</p> <p>(5) 震災 (1923 関東) から震災 (1995 阪神・淡路) まで。</p> <p>(6) 戦時中の「進徳丸」帆装完全撤去により、「日本丸」、「海王丸」の帆装完全撤去を回避し、戦後の帆船による教育訓練の復活に貢献。</p>	
6. 参考資料・文献 (本表に収まらない場合は別途添付する)	<p>(1) 練習船進徳丸史、進徳丸史編集委員会、1989.6</p> <p>(2) 財団法人『進徳丸保存会』－設立から解散まで－、財団法人進徳丸保存会清算人会、1996.12</p> <p>(3) 神戸商船大学開学記念誌</p> <p>(4) 練習船進徳丸航海報告 (第 1 次～第 40 次)、1924～1942</p> <p>(5) 練習船進徳丸修業報告、神戸高等商船学校、1936</p> <p>(6) 神戸商船大学海事資料館研究年報、海洋会誌記事等、多数</p>	参考資料・文献および所蔵情報等のリストを別添資料として添付。

(\*) No.は学会で記載します。(\*\*) ふね遺産認定基準の【認定対象】と【認定基準】の項目の内、該当する最もふさわしい項目一つを、文頭の番号で記載して下さい。